

特定非営利活動法人 つくば日中協会

会報 第二号 (2023 年 4 月)

発行者：特定非営利活動法人 つくば日中協会

事務局：つくば市松代 1-15-44

Email tjca@tsukubajca.com

HP <https://www.tsukubajca.com/>



1. NPO 法人つくば日中協会会報」第 2 号発刊に際する唐莉莉理事長挨拶



この度、NPO 法人つくば日中協会では、会報第 2 号として、発刊することになりました。2021 年 4 月発刊しました創刊号の続きに、地域の皆様及び会員の皆さまに、当協会に関する情報をわかりやすく発信し、草の根としての日中友好交流の場を提供と連携強化を図っていきたくと考えております。これまで 3 年もの長い間、コロナ禍は私たちの生活に大きな影響をもたらし、日中間の交流まで途絶えてしまいました。この厳しい背景においても、当協会は基本理念に基づいた新たな日中友好交流のニーズに答えられるため、様々な困難を乗り越えて、交流活動を続けられてきました。特に日中に於いて往来できないような状況でも、日中両国の言語を利用し、中国との交流を地道に努力しております。令和 5 年は当協会設立 30 周年の節目年ですし、コロナ禍の影響より国際社会の秩序は徐々に正常化に戻りつつきています。当協会は名誉会長であるつくば市五十嵐立青市長をはじめ、つくば市国際都市推進課等と会員の皆様と最も緊密に連携し、日中交流活動を通じて、相互理解と交流及び友情を深めることと世界に平和友好に貢献するために、令和 5 年度を「NPO 法人の正式活動元年」として一層邁進していききたいところです。

今後、会報を通じ、本法人の紹介と皆様のおやくにたてるよう情報を発信できるよう、ネットと同時に紙面の充実に取り込んでいきたくと考えております。今後ともご指導・ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

NPO 法人 つくば日中協会

理事長 唐莉莉

2. 筑波大学中国人留学生学友会 会長挨拶 趙旭青

2019 年に来日して以来、私は「日本料理講習会」、「忘年会」、「筑波山ウォーキング」や「筑波大学留学生への新米寄付」など NPO 法人日中協会との友好交流活動に参加し、日中友好交流と協力の新しい章を書き綴る瞬間が多く見られ、楽しい時間を過ごすことができました。

この 3 年余新型コロナウイルスは変異を繰り返し、終息する事なく、個人生活、様々な活動を制約して来ましたが、ワクチン接種が進み、治療薬も出回る様になって来ました。これから徐々にコロナ

前の生活に戻り、NPO 法人日中協会との交流がますます盛んになることを期待しています。また、NPO 法人日中協会会報を通じて、日中友好交流活動をより多くの人に知ってもらい、つくば市の日中交流は新たなステップに邁進することを願っております。

NPO 法人日中協会の今後の更なるご発展、また一日も早くコロナ感染が終息することを心よりご祈念申し上げます。

筑波大学中国留学生学友会 会長 趙旭青

システム情報工学研究群 リスク・レジリエンス工学学位プログラム D1

前会長の挨拶 彭齊家

NPO 法人つくば日中協会は長年日中友好に力を注がれ、特に筑波大学中国留学生学友会と様々な交流活動を共催されました。筑波大学の中国人留学生たちを代表いたしまして、改めて感謝を申し上げます。

筑波山散策、日本人とともに日本料理を作るなど様々な交流活動を通して、中国人留学生たちが日本の文化、歴史、風俗などについて理解を深め、知識を得ることだけではなく、日本人の方々の優しさや日中友好に対する情熱さも感じました。

また、日中協会の仲間たちと一緒に交流するおかげで留学生たちは自分自身の日本語能力やコミュニケーション能力も伸びて、留学生活を楽しむだけでなく自分の成長にも繋がっています。

私個人的にも本当に素晴らしい経験をし、一生の宝物になっています。この機会を借りて NPO 法人つくば日中協会の友達に深く感謝の意を表したいと思います。今年3月卒業見込みで、その後中国に戻り就職する予定です。この4年間、つくば日中協会の皆様に大変お世話になりました。本当にありがとうございました！

最後に今後とも筑波大学の留学生学友会をよろしくお願い申し上げ、NPO 法人つくば日中協会の益々の発展をお祈り申し上げます。

人間総合科学研究科 感性認知脳科学専攻 D3

彭齊家

3. 活動近況 副理事長/事務局長 青木克裕

当協会が特定非営利活動法人としてのスタートと同時期に新型コロナウイルス感染拡大がはじまり、感染防止対策や行動規制の中で慎重な活動を計画・実施また対策が困難な場合は中止する等の3年間になりました。

毎年5月に開催される総会は、参加者数を最小限に制限することで中止することなく対面で実施することができました。中国語講座は、感染状況や市の指導等を参考にしながら、対面授業とオンライン授業を組み合わせで苦心しながらの開催になっています。語学講座はその臨場感、口の動き、表情などが大変重要なのでマスクをしての会話やオンライン授業は講師も受講者も大変なストレスのなかにあったと思います。また、会員やご家族、留学生が楽しみにしている中国料理講習会と日本料理講習会は残念ながらすべて中止せざるを得ませんでした。

そのような中、秋のつくば山登山は、つくば市神郡の市営駐車場を出発地点として筑波道を歩いて筑波神社参拝、ふれあいの里で休憩をしてもとの市営駐車場にもどるコースに変更することで中止す

ることなく実施しました。昨年で3回目の新コース登山になりました。このコースは比較的なだらかで登山客の混雑もないので、野山の景色や秋の会話を楽しんだりとゆったりとした散策登山ができ、参加者の皆さんには大変気に入っていただきました。

令和2年12月は、皆さんが楽しみにしている日中交流忘年会を開催できませんでしたが、令和3年、令和4年は参加者数を従来の80名を40名に制限して、つくば市老人福祉センターで開催することができました。午前の部は参加者全員で餃子作りとお料理の準備、午後は日中交流忘年会で参加者の皆さんの余興などで楽しい時間を過ごしました。

さらに、特別企画として、論語の中国語読み講座を令和3年5月から7月のショートコースを開講しました。講師からは、中国語発音や背景などの解説があり、漢文学習とはちょっと異なる勉強を楽しむことができました。令和4年6月には筑波山麓の古民家にて、餃子作り大会を実施しました。広い庭と後ろには筑波山が大きく聳える環境で、気持ちのよい一日を過ごしました。

令和3年9月には茨城大学農学部から、研究栽培で生産した新米600kgの寄付があり、留学生の代表と協会役員がレンタカーのバンで河内町の保管場所まで引き取りに行き、JA桜にて精米したのちに留学生の皆さんに3kgに小分けして配布しました。大変美味しいとの評判です。

新型コロナウイルス感染状況は、まだまだ気を許せませんので、慎重に状況判断しながら皆さんに喜んでいただける活動を継続していきます。今後とも、ご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

4. 中国語講座を通して

4-1 講師 筑波大学社会工学学位プログラム博士後期課程1年生 劉菲

自分は修士2年生の時からつくば日中協会の会員になり、中国語クラスの講師を担当しています。つくば日中協会で中国語を教えているうちに、自分は中国語を教えることだけでいい先生ではないと実感しました。なぜかという、クラスの日本の方は息子が中国で働くとか、嫁さんが中国人とかみんなは中国と繋がっています。言い換えると、みんなは中国の文化と繋がっていると言えます。中国語の言葉を教えるうちに、その言葉は教科書での意味だけを教えるのではなく、生活上でどのように使われるのかも教えます。それでクラスのみんなに実用的な中国語が教えられると思います。一方で、自分は日中交流の使者として中国語と中国文化を教えている考えもあります。

自分は日中協会で過ごした2年間は本当にいろいろ勉強させていただいて、自分の人生の中で貴重な経験だと思います。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

4-2 受講生 鈴木淳一

私は、2019年につくば日中協会の中国語講座を入門受講してから、今年で4年目になります。職業柄、中国の留学生と研究をする機会もあり、コミュニケーションをよりとれるようになれば良いと思って受講を開始しました。大学時代に第二外国語として、中国語を履修していましたが、その記憶は遙か彼方に行ってしまっていました。そのため、初年度は、基礎の基礎である拼音の読み方から学習し、会話、基礎文法、長文へとこれまで学習を進めてきました。今年は、3名クラスメイトとともに中級コースを受講しています。中級コースでは、テキストに基づく講義だけでなく、楽しみながら学

習できる新しい取り組みをしています。例えば、隔週程度の頻度で、各人が好きな楽曲を選び、中国語の歌詞を理解した上で、全員で歌うなど、楽しみながら学習できる新しい取り組みをしています。講師が、授業がマンネリ化しないように、いろいろな工夫を凝らしており、少しずつレベルアップできるようになっています。その甲斐もあり、2022年の忘年会では、小丸子(ちびまる子ちゃん)の吹き替えにチャレンジできるまでになる等、クラスメイト全員が高い達成感を味わっています(写真1)。中国語学習における明確な目標を設定は、これまでしていませんでしたが、HSK等の検定にチャレンジするなどの意欲も出てきているところです。



中級講座の講師とクラスメイト(2022 忘年会)

何よりも、中国語講座に参加することは、講師との対話や講義を通して、異文化をより深く知ることができるのが大きな利点であると考えています。その一方、言語だけでなく、生活習慣にも多くの共通点があることも知ることができます。受講者だけではなく、講師にとっても日本のことを知ること等に役立っていれば幸いです。これからも引き続き、受講していければと考えております。

5. 活動の思い出

5-1 古民家での餃子づくり 理事 川村路子

令和4年度の特別企画としてつくば山麓の古民家にて、6月4日「餃子を食べる会」を開催しました。コロナ感染症拡大のため、大勢での集会や食事はできませんでしたが、コロナ対策として密にならないよう充分に気をつけながら会員20名限定で行いました。



メニューとして、水餃子、前菜、若竹汁を作りました。中国人の方々による懇切丁寧な皮づくりの指導のもと約半数の人が、皮づくりに挑戦しました。皮の硬さは水



一滴で大きく変わることも判りました。日本では今まで見たこともない緑色の皮の餃子も作って楽しみました。棒状に伸ばした皮を小さく切って麺棒で丸く伸ばす作業は、なかなか慣れないと丸い形にならないことも判りました。中国の方々は何事もなく上手に丸く伸ばしておりましたが、多くの人は四苦八苦しながら挑戦していました。中に入れる肉餡には、一般的なニラやキャベツの他にセロリを入れたものも作りました。タレも手作りで本場の中国の味を味わうことができました。前菜は干豆腐、キクラゲ、セロリの和え物、包んだ餃子は玄関先で茹で、茹であがった熱々の餃子を順次頂きました。十

分な数ができたので皆満腹になるまで頂くことができ、茹でるのに手間がかかりましたが、その苦労も報われました。皮づくりから参加し、茹でたてを食べられたことに参加者一同大変満足の様子でした。また、こうした作業の中にも、日中の会員同士の交流が生まれ、参加者の多くの方々から大変楽しかったとの声が聞かれました。

筑波山をバックに古民家でゆったりとした気持ちで活動できたのは 会員限定ではありましたが有意義な1日となったことと思います。コロナが収まり、感染の心配なく活動ができる日が早く来ることを願っています。

5-2 秋の筑波山登山

人間総合科学学術院 ヒューマンバイオロジー学位プログラム D1 銭青茵

11月、紅葉がつくばに現れ始めたところ、私は筑波中日交流協会の登山活動に参加した。筑波に5年以上住んでいるため、11月は筑波山を登る素晴らしい季節であることはよく知っていた。そのため、この時期に登山する機会があると聞いたら、ためらわず参加した。

偶然にも、行く前に、伝統的な中国服に熱心な友人と一緒に漢服を着ることを提案してくれた。私には新鮮だが、試してみたいと興味があったので、明朝様式の衣装を借りて着ることにした。幸運にも、その日の天候はこういう服を着るのにぴったりの温度だった。漢服を着ている私たちは、登山の途中で通りかかった人々に好奇の目を向けられた。

集合場所で私たちは軽く自己紹介した後、すぐに筑波山に向かって出発した。登りながら、私はほとんどの人々の最後に歩いていた。約40年間筑波にいう川村さんは、道路沿いに見た花や木の名前について非常に知識があり、日本の田舎の秋の景色をたくさん紹介してくれた。また、人々が柿を吊り上げて干し柿を作ることを初めて見た。私が都市で育っているため、このような景色は楽しいものだ。

最後に、この登山活動は私たち留学生に中国に関心を持つ日本の方々とは話すプラットフォームを提供してくれた。その中には、私が行ったよりもはるかに多くの中国の場所を訪れた人もいた。このような会話を通じて、私は彼らが中国と日本の関係についてどのように考えていることを知った。また、彼らが中国人の日本に対する見方もより詳細的に知ることができたと私は信じている。



5-3 日中交流忘年会に参加して

毎年恒例の日中交流忘年会は、コロナ感染対策による会場の人数制限の中、参加者を40名に限定しながら12月に実施しています。会員、留学生とつくば市関係者の方のみでの開催になりました。ご家族の皆さんにも参加いただけるよう早くコロナ禍が終息することを祈っています。令和4年12月10日に開催しました忘年会に参加なさいました会員と留学生の方から感想などをいただいていますので紹介させていただきます。

留学生 システム情報工学研究群 リスク・レジリエンス工学学位プログラム D2 崔 歆

去年の12月10日に日中協会の行った忘年会に参加しました。協会の中国人と日本人の先生達と一緒に中国の餃子を包みました。餃子はよく家族みんなと中国で一緒に包みましたが、このように先生達、特に日本人の先生達と一緒に包んだのは本当に初めてです。本当に珍しい記憶になりました。今までも覚えていることはいろいろありますよ。美味しい食べ物もいっぱいありましたし、面白いゲームと雑談もいっぱいありました。

印象の一番強いのは中国語の先生の司会した“猜谜”ゲームでした。そのゲームには二つのパートがありました。一つは中国語で質問をして中国語で答えたものです。もう一つは日本語で質問をして日本語で答えたものです。最初にはこれはすごく簡単ではないでしょうかと思いましたけど、「中国語の分は必ず日本人でして、日本語の分は必ず中国人でして」ということが分かってびっくりしました。これは超難しかったのではないのでしょうか。でも私と隣に座っている二人の日本人の先生と一緒に3人グループを作りました！一緒に一生懸命頑張ってきて最後に3人とも正解で賞をもらいました。

ちょっと「ずるい」でしたけど、私たちのしたのは以下のようです。中国語の質問に対しては、私が考えの担当で、先生達は答えの担当でした。つまり、中国語の質問の内容は私で考えてみて、その考え出した答えを日本人の先生たちに教えて、また先生たちで手を上げて答えを答えました。逆に、日本語の質問の場合、日本人の先生達が考えの担当で、私が答えの担当でした。まあああ...確かに「ずるい」でしたなあ、でも最後に3人とも正解で賞をもらって超嬉しかったです。私たちの「3人グループ」での成果でしたね。

会員 若山 信行

「つくば日中協会主催の日中交流忘年会に参加して」2023年1月31日 若山 信行

私は10数年前、勤め先を定年退職後、それまでの仕事の中で感じていた納得できない事柄、日本の理系大学院修了者の就職事情と、その後の処遇について、深刻な問題がありその原因を知りたいと思い、大学院学生として、某大学の教育学研究科で学びました。その中で、その原因や背景についてはおおよそ分かったつもりでしたがそれに対して、その状態をどう改めるかについては、とても手に負えないことだと思わざるを得ませんでした。

その後、家庭の事情で、つくば市に引越し、通訳案内士（英語）の資格を取得し、外国人の観光案内などもしておりました。筑波大学の留学生なども案内したこともあります。そうした中、中国語の資格も取得したいと思い、つくば日中協会で中国語講座が開かれていることを知り、つくば日中協会会員となり、講座にも参加させていただきました。

それまで、中国語はNHKの講座を一人で視聴し独学で学びましたが、何時まで経ってもしっかり身に着く達成感はありませんでした。

つくば日中協会の中国語講座では中級コースや、文化コースに参加しましたが、中国語それ自身とても習得が難しい言葉であり、その上、そうした勉強の中で、自身の記憶力の劣化が著しいことを痛感し、言語能力の習得という面では、悪戦苦闘が続いております。中国語講座に関しては、教育学研究科で学んだ経験もあり、教育の在り方については、つつい注文も出し、不興を買っている場面もあるかもしれません。

ただし、筑波山登山や、忘年会などに参加することは、とても良い中国語勉強の機会であり、かつ、中国文化を学び、同時に日本の文化も留学生の方々に知っていただく絶好の機会だと思っています。忘年会での餃子づくりに関して言えば、毎年、皮も全く使い物にならないものしか作れず、迷惑をかけているに違いないでしょうが、そうした機会に留学生などと知り合い、メールの交換もし、相手の方には易しい中国語で書いていただき、自分は日本語で書くというような形で、実用的な語学学習と文化の相互理解などが、少しずつ出来ているという感触を得、嬉しく思っています。こうした機会をもっと生かすためにも、皆さんと一緒する時には、予め話す内容を準備しておくことはとても良いと思い、一層努力をしたいと思っています。

ただし、筑波登山に関しては、毎年利用している駐車場から筑波山神社までの登りはとても私にとっては、とてもきつく感じ、出来るなら、筑波山神社まではタクシーの相乗りで参加できるような高齢者、障害者向けの参加のあり方も考慮していただけたらと思っていますし、もっと参加者が増えることにつながるという期待も持っています。

今、日本と中国の政府間の関係はごちない部分も散見しますが、両国の一般国民の交流という面では絶えず理解を深め、相互に協力することはこれからも一層推し進めなくてはならないし、それこそが、世界の平和のためにも私たちが出来るもっとも重要なことだと思います。日中協会などの活動が、良い広く展開され得るためにも、私は会員の一人としてお役に立てればと思っています。

会員 堀賢介

令和4年12月10日、つくば市ゆかりの森老人福祉センターとよさにて開催されたつくば日中交流忘年会に参加させて頂きました。忘年会では、前半は餃子作り、後半は作った餃子などを食べながら我々中国語クラスの面々や中国人留学生の皆さんによる余興が行われました。中国人の皆さんの指導のもとに皆で作った水餃子は格別の味わいでした。手作りの皮はもちりとしていて、パクチーの入ったピリ辛の秘伝のタレにつけて食べると、もう箸が止まりません。また協会の皆さんが事前に準備して頂いたけんちん汁等の日本料理もふるまわれ、食の文化交流がまさに出来ていたように思います。私が参加する中級クラスは、講師の陳先生の多大なご協力の下、前半に「櫻桃小丸子（ちびまる子ちゃん）」



のセリフを中国語で読み、後半に「稍息立正正站好（踊るポンポコリンの中国語版）」を歌いながら踊る、という（我々にとっては）かなり野心的な出し物を行いました。本番は機材のトラブルもあり、練習の成果が十分に発揮できなかったのですが、是非次回機会があればリベンジを果たしたいと思います。中国語講座に参加して三年目になりますが、初の参加となりました。再びコロナの感染が拡大する中での開催には大変なご苦労があったことと思いますが、中国人留学生の皆さんとの交流を行う

貴重な機会となりました。協会の皆様にはこの場をお借りして感謝を申し上げます。



6. シルクロード旅行記 理事 川村路子

2018年4月、かねてより行きたいと思っていたシルクロードのツアーがあり、日程、内容、料金ともほぼ納得のできるものだったので夫と共に参加しました。成田空港→上海→西安→烏魯木齊(ウルムチ)→高速バスにて吐魯番(トルファン)→高速鉄道にて敦煌(トンコウ)→西安→上海→成田空港に戻る7泊8日の旅でした。シルクロードの出発地点の西安では、世界遺産の始皇帝兵馬俑坑博物館や唐の高層玄奘三蔵が印度から持ち帰った経典や仏像などを保存してある大雁塔などを見学し、それから烏魯木齊に飛行機で移動しました。

新疆ウイグル自治区の「疆」の字は意味があり、「弓偏」は国境を、弓偏の中の「土」はパミール高原を、右側の一番上の「一」はアルタイ山脈を、中の「田」はジンガル盆地を、次の「一」は天山山脈を、次の「田」はタリム盆地を、最後の「一」はコンロン山脈を表しており、この字の意味が示すように新疆ウイグル自治区の人々は山脈に挟まれた盆地で生活をしているのだそうです。烏魯木齊ではウイグル自治区博物館にある楼蘭の美女のミイラを見学することができました。時には貸し出すこともあるそうで、今回運良く対面できました。40数年前に新疆ウイグル自治区で発掘され、3800年前のものというけれど、目鼻立ちがはっきりしていて本当に綺麗で着ていた衣服もしっかり残っていて、数千年前の物とも思われませんでした。吐魯番には砂漠地帯を高速バスで移動し、車窓からはアジア最大の風力発電所だといわれている風力発電用の風車が何キロも何キロも延々と続くのが見られました。また途中、世界遺産になっている



自治区で発掘され、3800年前のものというけれど、目鼻立ちがはっきりしていて本当に綺麗で着ていた衣服もしっかり残っていて、数千年前の物とも思われませんでした。吐魯番には砂漠地帯を高速バスで移動し、車窓からはアジア最大の風力発電所だといわれている風力発電用の風車が何キロも何キロも延々と続くのが見られました。また途中、世界遺産になっている

古城や、断崖に在る石窟寺院を見学しました。トルファン盆地の中部にある孫悟空で有名な火炎山の横を流れる河の周辺に緑はあるけれど、他は見渡す限り赤い砂漠地帯が続きました。人々の生活は天山山脈の雪解け水をせき止めて、縦井戸と地下水道を繋いでオアシスまで引き込み、生活用水や灌漑用水として利用しているそうです。その仕組みを実際に見学し、流れている水を触って見たところ案外ぬるかったのを覚えています。

敦煌には高速鉄道に乗り、延々と続くゴビ砂漠の中を 3 時間以上もひた走り、柳園で下車し、そこからはバスで移動しました。この柳園はキャラバンの重要な中継地だそうです。シルクロードの重要な堅固な関所の陽関、玉門関等を見学しました。玉門関の近くに、漢代の万里の長城が 2000 年もの間風雪に耐えた姿で横たわっていて、今まで北京の万里の長城しか見たことがなかったので、ここまでも続いているのかと思うと本当に中国の広大な、そして偉大さを感じました。



また、世界遺産に登録されている仏教遺跡の莫高窟を見学しました。5～15 世紀までの 1000 年もの間造り続けられたのだそうです。ガイドブックや教科書で知っていたのとは違って、アパート形式だったのには驚きでした。見学できるのは殆ど 2 階の部屋で、ガイドさんが一部屋ずつ鍵を開けて初めて中に入ることができ、建築、彫塑、壁画などで、保存状態も良く、芸術性などが高く、鮮明な色彩に目を奪われてしまいました。残念なことに 1 階の部屋はだいぶ破壊されていました。

近くには月牙泉という砂漠の中にあって何千年も前から湧き続けている三日月型の不思議な泉や、砂利が堆積してできた砂山の鳴沙山を見学しました。この砂山は強風に舞う砂の音が管弦や太鼓のように響くということから鳴沙山と呼ばれているそうです。砂に足を取られながらも強風に負けずに頂まで登ったけれど、たちまち足跡は風に吹き飛ばされていました。

シルクロードを旅行するまでは、シルクロードというのは現在見るような決まった道であると思っていましたが、ガイドさんの説明等から、厳しい自然の影響を受けて絶えず道は変化していたのだと言うことが判りました。この厳しい砂漠地帯や険しい山岳地帯の途方もない距離をどのように移動していたのかとか、シルクロードの一部分での旅でしたが、いろいろな思いを馳せながらの楽しい旅でした。



7. 日本留学滞在記

7-2「筑波山と私の大学生活」 社会・国際学群社会学類 B4 修其志

筑波大学から北に約 13 キロのところに、日本百名山の一つ、筑波山がある。関東平野に突出するその雄大の姿は古くから「西の富士、東の筑波」と称され、茨城県のシンボルとされており、筑波大生

にとって親しい存在だ。

今住んでいるアパートから筑波山が見える。筑波大に入学してからすでに4年ほど経ったが、毎朝ドアを開けて筑波山を見た瞬間に、心が和やかになり、一日が始まる。こうした筑波山は私の大学生活と深く関係している。

2018年4月、入学したばかりの私は大学新聞に入り、新歓活動の一環として先輩たちと筑波山に向かった。入部して間もない私はほかの人との交流が少なく、外国人留学生というアイデンティティを意識しすぎて、編集部には溶け込めなかった。したがって、当日ロープウェイに乗って女体山に向かう時、私は誰と話すこともなく、ただ過ぎ去った緑を見て茫然としていた。ロープウェイから降りて山頂にまで移動する途中、私は足の動きをうまくコントロールできず、捻挫した。すると女体山を上下する人の流れの中で、私だけが止まり、ほとんど初対面の先輩たちから「大丈夫？」などといった心配の声がかけられた。その時私は恥ずかしくてしかたがなかった。あれ以降、私の筑波山に対する記憶の中にはその日の気まずさがずっと残っている。その後大学新聞での活動もうまくいかず、2年の夏に辞めた。日本人学生とのコミュニケーションもそれをきっかけに徐々に希薄になっていく。

3年生に入ると新型コロナウイルスの影響を受け、私は多くの学生と同様に登校回数が大幅に減少し、家でオンライン授業を受けながら、一日中誰とも話さない日々を過ごしていた。すると私をめぐる人的ネットワークがだんだんと縮小し、時々引きこもりの状態に陥った。私の人間関係に転機を与えたのは2021年秋に学友会と日中協会が共同主催した筑波山登山イベントである。今回はトラブルが起きたことなく、私はゼミの先輩と一緒に山下から筑波山神社までの参道をゆっくり歩いていた。当日はフィルムカメラをもっていたため、途中で同じく写真撮影を好きな人に声をかけられ、後に友たちとなった。その日の道の両側にあった黄色い蜜柑の香りと神社で見た綺麗な着物を着ている女の子の笑顔はいまだに記憶の中で残っている。また、私は昨年の登山イベントにも参加し、初めて日本で同じ出身地の同郷と知り合って、まるで故郷に帰った気分になった。このように、登山活動をきっかけに私は再びソーシャルイベントの楽しさを味わえた。

今年の10月に筑波大は創設151年開学50周年を迎える。東京から移転して50年になり、筑波大は様々な発展を遂げた一方、筑波山はあいかわらずそこにある。私も4年生になってからついに大学生活を慣れていき、大学新聞にも復帰した。振り返ってみると、筑波山は入学当初の私の対人関係における失敗とその後の回復を見届けたと思う。今年度から私は大学院生として筑波大での生活が続き、またいつか筑波山で良い思い出を残したい。

7-2「私の日本留学滞在記」 人間総合科学学術院 障害科学学位プログラム M1 張正瑤

私は2022年4月から筑波大学大学院の人間総合科学研究科に入学しており、現在、聴覚障害生徒の読み書きに関する研究に取り組んでいます。

私は、大学で日本語を専門として勉強していますが、日本語で日本人や日本語を教える先生とコミュニケーションすることはごく少ないから、日本へ留学するには、期待していると同時に、非常に緊張して不安です。それにしても、去年4月に、筑波大学大学院へ留学しました。今まで印象深いのは、日本で買い物をして初めてのときの出来ことです。一の矢宿舍のコンビニでケーキ、パンとヨーグルトを買った後、レジは「袋とストローは大丈夫ですか」と聞き、一度に理解できなかった私はとても恥ずかしい、「はい」と言って、わからなくてもわかるように偽装しようとします。「はい」とレジにい

いますから、袋とストローはない、しかし、パンとケーキは大きいから、袋はやはり必要です。結局、もう一度レジに袋をお願いしますが、あの時は、おふくろをプラスチック袋とか、食べ物を入れるものとかいくつかの形容詞と言い方を変わってレジとコミュニケーションする。私は、日本語をよく喋れないが、日本で初めて買い物をして日常会話をするにとっても感動しました。わくわくです。

そして、日本語で話すことにも不安とか緊張とかだんだん消えてしまいました。このように、去年12月中、「IMAGINE THE 海外」という活動に参加しました。たくさんの国の留学生が参加して、異文化交流するから、中国留学生組織の先輩と友達と一緒に、中国の伝統的な服装である漢服を着ます。私は明の時代の漢服を着て、友達は唐と明の時代の漢服を着ました。唐の時代の漢服の華麗に対して、明の時代の漢服は淑やかです。

会長さんが真面目に中国コーナーへ来る留学生たちに中国の武術、ジャッキーチェン、じゃぶじゃぶなどを紹介しているのを見ていた後、友人とベトナム、マレーシアなど東南アジアコーナーへ行き、空き缶に腰に掛けているペンを入れるゲームをやって、スケアクロウの形のプレゼントをもらいました。また、ブラジル、ドイツ、スペイン、中央アジアのカザフスタンの留学生たちと交流しました。時は英語で時は日本語で、私はそんなに上手ではないがみんなとても優しいし、コミュニケーションがうまくいきました。

今回の留学経験を通して、先輩、友達、宿舍コンビニのレジさん、外国人の友人たちと出会う、異文化コミュニケーションそして英語と日本語能力を向上することに非常に感謝します。まだまだ研究を始めたばかりですが、今後、この体験を忘れずに、その自信と楽しさをもって今後の研究に取り組んでいくつもりです。

8. 活動に関する役員の想い 各役員

8-1 唐莉莉 理事長

筑波大学大学院に留学するときに、筑波大学中国人留学生学友会と交流している日中友好交流団体は、土浦、石岡、東村、北茨城の4つの「日中友好協会」の団体です。当時つくば市にはなぜ日中友好団体はないかと思いました。その後、学友会を通して、「中国における義務教育の現状」を紹介してもらうかと協会の月例会議に講演依頼がきたことは、つくば市に「つくば日中協会」という組織があることを知ったきっかけでした。当協会の活動に参加していくことにより、つくば日中協会と日中友好協会の組織的な違いも分かりました。設立当初、研究者をメインとした有志者からなるつくば日中協会が、協会の会員に日中両国の市民とも加入できて、特に協会幹事会にも中国人の会員も参加できることは、日中交流組織の中でも唯一な存在だと言われています。

そして90年代の社会事情により、中国語を学びたい会員が多いですが、勉強できる場所は少なく、不破正宏会長の相談により、地域奉仕を込めてつくば日中協会主催の中国語講座を開催し、初代講師になりました。研究所に就職し講師を辞任しましたが、毎回の当協会の中国語講師の選抜には関わりました。

平成19年に不破会長の依頼により中国語講座管理責任者として役員になり、協会運営に参加しました。役員会には、温かい雰囲気の中に、仲間としてお互いに助け合いしながら一緒に協会を運営していました。平成28年ごろに、会長の高齢により、私は後任会長を指名されましたが、仕事に都

合上、海外出張が多いので断りました。その後役員たちの協力と助け等により、平成 30 年に第二代目の会長を引き受けました。微力でありながら、会員と役員の皆様の助けと支えがあり、会長として当協会の運営を今日までできました。

これからも皆さんと一緒に日中友好交流と地域国際交流と平和のために貢献していきたいところです。今後ともよろしくお願い致します。

8-2 青木克裕 副理事長

四川省成都市滞在中に、ボランティアや日本語を学習する皆さんと交流する機会がありました。その時に、つくば日中協会の皆さんと成都市の間で何度かビデオ交流会を開催し、日中協会会員の成都市訪問などが実現し、素晴らしい友好関係が生まれました。世界情勢は数年、数十年、そして数百年のスパンで複雑に変化しますが、市民の友好関係はずっと変わらないで続くものと信じています。そして、つくば日中協会の留学生の皆さんや日本在住の中国人の方々との草の根活動はやがて大きな友好への発展に大きな役割を果たしていると思います。私たちの活動が、さらに広く国際友好活動の友好活動モデルになれるように微力ながら尽力していきたいと考えています。

8-3 杜明遠 常務理事

最近、仕事場のあるプロジェクトの HP をプロジェクトの終わりに伴い移転することになりました。驚くほど高いです（単にドメインの維持費だけでなく、制作会社による保守経費（制作料、サーバーの使用料、アクセスレポートの費用、何か不具合があった時の対応などを含む）。つくば日中協会の HP を担当してよかったと思いました。つくば日中協会は NPO 法人になると、独自の HP を持つことは大事で、以前の HP は無料の Google サイトにあるが、新しく作るのに、予算がありませんでした。仕方なく、私が作ることになりました。しかし、HP の進化も日進月歩で、いいものを作るなら、かなり高い技術が必要です。私の HP の知識は昔の入門レベルで、勉強の時間ありませんでした。とりあえず、独自の HP があることを大前提で、昔の入門レベルで作りました。現在随時更新可能です。簡単な HP ですが、ドメインの維持費以外、保守経費はありません、すべて私が担当しています。会員の皆様に HP 作り方わかる人ありましたら、ぜひ NPO つくば日中協会の HP の構築に力貸してください。

8-4 由布宗郷 理事

私はこの協会に係るようになったのは妻がもと中国籍で、つくば市の中国の方と面識と交流があったからです。行政書士の仕事をしているということもあり、折しも当協会が NPO 法人に法人化するという時であり、県に対する申請や連絡調整をすることになりました。定款の作成と組織の編成などを県の方と綿密の調整し認定を得ることが出来ました。最後の法人の登記は理事長にやって頂く形になってしまい申し訳なく思っております。私は主として理事会の議事録の起案をしておりますが、できるだけ次回の事業に反省点を活かせるようノウハウを蓄積し整理するように着意しております。語学講座運営やイベント開催の要点や注意事項など整理していきたいと思っております。

8-5 川村路子 理事

日中協会との関わりは、中国への旅行が最盛期の頃、旅行するなら少しは中国語がわかれば楽しくなっていたところ、日中協会の中国語講座を知り、受講したのが始まりでした。その後協会の催しに参加するようになりましたが、協会の世話をする人が少ないことからお手伝いをするようにな

って今に至っています。

中国料理講習会、日本料理講習会などは、ここ3年ほどはコロナの影響のため実現できていませんが、食に関することは共通の話題でお互いに興味があり、一番交流のできる良い機会だと思っています。今年こそは何とか実現できることを願いながら、これからも微力ではありますが日中交流のために協力したいと思っています。

8-6 厳康敏 理事

毎年、桜の花が咲く4月に、日中協会が主催する中国語講座があります。この2年間は中国語の特別講義もあり、私はその講師として参加しました。その2年間の特別講義を振り返ります。

昨年の特別講座では、ピンインについて学習しました。中国語が母国語の私にとってピンインの発音は簡単なものですが、日本の受講生がたった30分で23個のピンインを覚えるのは簡単ではありませんし、中には初めて中国語にふれた受講生もいます。そのため授業準備として、外国人がピンインを学ぶための教材やビデオを数多く見つけて参考にし、できるだけわかりやすい内容になるように心がけました。受講生の皆さんはよく勉強し、とてもよい結果を出すことができたと思っています。

今年の特別講義は、HSKの試験内容を紹介するものでした。簡単な1級から難しい5級まで、例題と練習問題でHSK受験に対する第一印象がつかめたと思います。クラス内ではHSKの試験を受けた学生も数名いて、目標をもって中国語を学習できていることを大変うれしいと思っています。講義から多くを学び学習持続し、そのお手伝いができたことに非常に満足しています。

8-7 飯田茂 監事

私の好きな中国古典を一つ紹介したいと思います。

『管仲』と『箕子』 管仲が活躍したのは、中国春秋時代の8世紀ごろの周がいったん滅んで、諸公が各地に割拠している時代である。管仲という人物、そこには常に鮑叔という大夫がいた。『管鮑之交』（かんぼうのまじわり）という成語はここに由来する。管仲の努力によって斉という国は盛世するのである。管仲は出世を望まず常に庶民の立場で考え、民のための政治をおこなった。管仲は宰相の立場にあって、君公に非常に信頼が厚く重農政策、重商政策の立場をとって、斉王に進言し実行に移されたのである。そのことにより、斉の桓公は周王に代わって中華の覇者となったといえよう。それより前、紀元前17世紀頃始まった「商」（殷）という古代中国の国があった。初代は湯王である。第28代目の王文丁に「箕子」という子がいた。紂王（帝乙）の子が受王である。後に紂王と呼ばれ、いわゆる「狂」の時代をつくった。「炮烙の刑」、「酒池肉林」、周侯の長子を熱湯で煮殺しその湯を羹（スープ）として周侯に飲ませた。常人とは思えぬ受王の「狂」。この受王の右腕となって活躍したのが箕子である。最晩年の箕子の九疇（きゅうしゅう）が有名で、その九項目目は「五福」である。これは人間の幸福についてである。すなわち、寿命の長いこと、財力の豊かなこと、無病なこと、徳を好むこと、天命をもって終わることである。これは3,700年以上経過した現代に蘇生する。（宮城谷昌光著『管仲』（上下巻）及び同著『王家の風日』参照）

8-8 曾継業 監事

毎年、筑波日中協会の活動の一つは、筑波山の散策です。秋高气爽の季節に、会員、家族、筑波大学の学生たちと一緒に筑波山脚から出発、農道に沿って、筑波山神社までに登ります。そこで、参拝したり、見学したり、観光もする。遠い富士山が見えるほど景色は美しい。曇下の野原、沿道の古民

家などは、人々の心を惹き付ける。『常陸国風土記』では筑波山について、富士山と対照されるほどの山容を持っている。関東平野に住む人が昔から筑波山を崇められてきたともいわれる。神の山として信仰が深く、その神霊を祀る筑波山神社は公家・武家から崇敬が深い神社であった。私は特に惹かれたのは筑波山縁起の碑です：

わだなかや鵜の鳥むるゝ島二つ

天霧らひ男峰は立てり望の夜を

いづみわく女峰の萱の小春かな

国原や野火の走り火よもすから

蚕この宮居端山霞に立てり見ゆ

喜雨道人（水原秋桜子）の詩と彫刻の書道もとでも美しい。



9. 令和5年度 NPO 法人つくば日中協会役員構成

名誉会長	五十嵐 立青（つくば市長）
顧問	布浦万代
理事長	唐 莉莉
副理事長	青木 克裕
常務理事	杜 明遠
理事	由布 宗郷
	川村 路子
	巖 康敏
	中山 由美
	遠藤 一昭
監事	飯田 茂
	曾 継業

編集にあたって

青木克裕

会報第二号の発刊にあたり、会員や留学生の皆さんにも原稿執筆をお願いしました。お忙しいなかで時間を割いて執筆いただき、ありがとうございました。

普段の交流活動のなかでは発信しきれなかった出来事や思いを会報としてお知らせすることは会員、留学生、会報を読んでいただいた皆さんの間で良き相互理解を深めるのにたいへん有意義なことだと思います。今後も、皆様のご協力を得て、定期的に会報を通していろいろなことを発信していきたいと思っています。